



皆さんの温かい心に  
涙が出るくらい感動



香月 翔羽  
福岡県  
名島小学校 5年  
第19回生

「いのちの石碑」  
街頭募金を行って



神田 七海  
宮城県・女川中学校3年  
第19回生

私は福岡県で、「いのちの石碑プロジェクト」の街頭募金活動を行って本当に良かったと思います。まず、街頭募金を行う機会をつくっていただいた事に感謝します。宮城県から遠く離れた福岡県で募金活動をする事は私にとって、とても勇気がいることでした。きつと福岡県では東日本大震災というのは過去のモノになっていて、誰も現在進行形になっていることを知らないだろうと思っています。なので募金が一つも集まらない事も覚悟していました。しかしそれはただの思い込みでした。募金活動を始めて五分も経たないうちに募金してくれる人がどんどん増えてとても驚きました。それ以上に感動した事が私と一緒に募金活動してくれている基金のこどもたちがまた。

私はみんながこのプロジェクトを応援してくれているという気持ちを大切に、これからも頑張っていきたいと思っています。絶対にこの「いのちの石碑プロジェクト」を成功させたいと思うので、これから心の片隅で応援していただいたら嬉しいです。

募金活動に協力していただいた皆様、本当にありがとうございます。

「夢みるこども基金」ホームページはこちら

「環境こども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。

URL : <http://www.yumemirukodomo.jp>

Webでの検索は

歯医者さんありがとう! 私たちのキャンペーンは歯科医院などから提供していただいた金属冠で支えられています。

2面	基金の森・絵 (福盛紀世輝)、基金の森・文 (阿部由季)、松葉掻き・絵 (緒方太郎)、松葉掻き・文 (田邊楓)
3面	コンクール受賞作品・絵 (緒方太郎、土肥寛太郎、カニズ・ファティマ・ラボニ)、4コマ漫画 (森元鑑)
4面	コンクール受賞作品・絵 (小南未来)、ヤマネの巣箱・文 (岡部憲和) 4コマ漫画 (瀬屋江里)、あとがき (堀江健一郎)



## 楽しかった「木との会話」 友情の輪も広がる



絵／福盛紀世輝  
鹿児島県  
緑丘中学校1年  
第19回生



福岡に着いて一日目、バスで佐賀市三瀬村の夢みるこども基金の森へ行きました。

ヘルメットをかぶり、軍手をし、準備万端で森に入りました。森の中はとても涼しく心地よかったです。自然観察では森の中を細かく探索し、川に行ったり虫を探したり一緒にいたみんなと楽しく過ごせました。

また、「木と会話する」という活動もとても楽しかったです。子どもならではの感受性でそれぞれ自分が選んだ木と会話し、それを聞き、みんな違ってみんないいなと思いました。

木工品作りでは一生懸命削って、切って、自分だけのオリジナルキーホルダーを作ることができました。キーホルダーに

は七月二十七日と刻み、この時、この日を絶対に忘れません。今は大切に机に飾っています。

この森はみんなとより仲良くなれるきっかけになった場所でもあり、基金の活動の歴史を感じた場所でした。とても良い思い出になり、絶対忘れられない体験になりました。

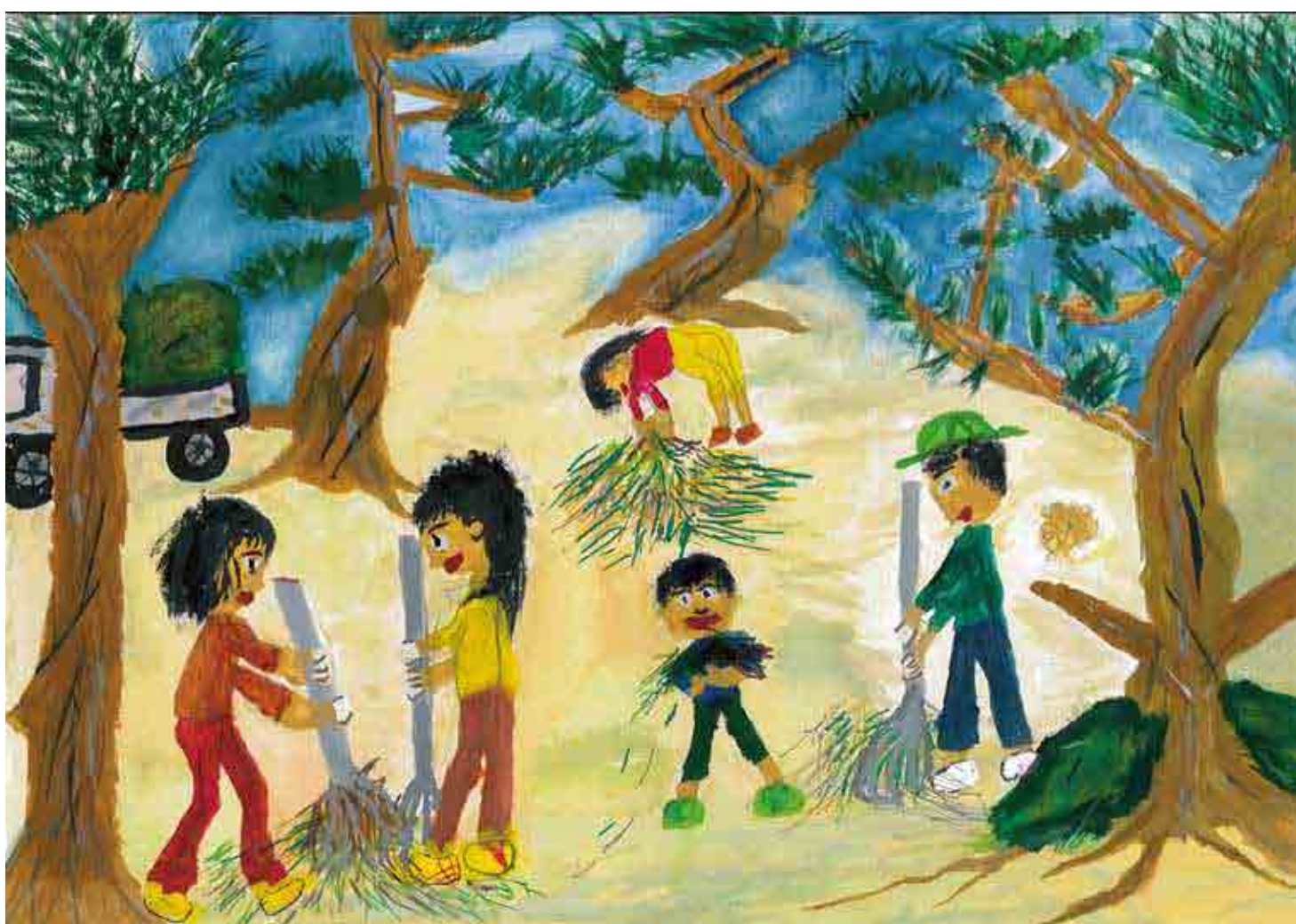


文／阿部 由季  
宮城県  
女川中学校3年  
第19回生

## 松葉掻きで学んだこと



絵／緒方 太郎  
福岡県  
横手小学校4年  
第18・19回生



私たちこども基金がやって来たのは、佐賀県唐津市の虹の松原という所です。

松原というのは、海から住宅などを守るために松の木がたくさん植えられている所で、それだけではなく、松の木の下はとてもすくすく、地面の温度を下げるという働きもあります。

松葉掻きの手順は、まず松

ぼつくりや松の枝を拾い集めます。次に、熊手を使って松葉を集めてトラックに乗せる作業です。このときに、地面にひかかり折れないように、熊手は竹ではなく、これににくい金属でできていました。

私は松葉掻きを体験して、いつもなら何人かの少ない人たちでこの作業をしていて大変だな

と思いました。

今、大人の方たちが松の木を守り増やしていく作業をしています。この作業を受けつづけるのは私たち子どもなので、これからも自然を大切にし、自然の大切さを未来に伝えなければいけないと、私は考えました。



文／田邊 楓  
福岡県  
別府小学校6年  
第19回生





## 優秀賞 ぼくは、夢の電車の運転士

今後、大地震やその他の災害が起きた時にもきこ役に立つと思うからです。

僕は宇宙飛行士になるのが夢で、また電車も大好きです。  
太陽は46億年後に赤色巨星となり、地球は飲み込まれてしまいます。  
そこで将来ロケットで土星に行き、線路を地球につないで、25両編成の電車で一度に千人の人を運びます。



緒方 太郎  
福岡県  
横手小学校3年  
(入賞当時)



夢はかなうものです。  
夢を忘れずがんばるぞ。

土星を目指して運転している車内の様子を切り絵にしました。  
工夫したところは線路の先に見える土星の大きさや位置です。  
はるか彼方にある土星を表現しました。



## 優秀賞 みんなで協力して魚の捕獲

農民は自分の池で魚の養

池や川の魚をよく食べる。  
魚の養殖も池で行っている。

だから人々は海の魚より

南はベンガル湾であるが、内陸部から海ははるかに遠い。  
国である。田舎の至るところに池や小川がみられる。

バングラデシュは水の多い

カニズ・ファティマ・ラボニー  
バングラデシュ夢みるこども基金学校6年(入賞当時)



私が日々見慣れている風景を残したいという気持ちでこの絵を描きました。

地域の若者たちは池に入り、みんな協力して魚を捕獲し、分けてもらうことがよくある。

殖をし、畑に米や野菜の栽培をして自給自足の生活をしている。

## 廿川町の「いのちの石碑」建立はこどもたちが主役です



計画が早く実現するといいな。

森元 鑑  
鹿児島県  
清和小学校5年  
第19回生



## 特選 福岡城がたつたらしいな

ぼくは、ふくおか城の天守かくの絵をかきました。今、ふくおか城に天守かくはありません。ぼくがおとなになったとき、天守かくのぼつて、本丸や二の丸のやぐら、門や石がききながめたいです。  
絵をかくときにくふうしたことは、



石がきに色をぬるとき、ペンにはい色がなかったため、えんぴつでうすくぬうたことです。また、天守かくや、やぐらをまっすぐかくのたいへんでした。



土肥 寛太郎  
福岡県  
箱崎小学校1年  
(入賞当時)





濱屋 江里  
兵庫県  
雲雀丘学園高校3年  
第14・15回生

伊藤先生の本業が医師とは信じられない



## 特選 私の歌でみんなを 笑顔にしたい



小南 未来  
福岡県  
河東中学校1年  
(入賞当時)  
第19回生

私は歌手になることが夢です、私は嬉しい時歌を歌います、私は悲しい時歌を歌います、歌が無いと私じゃなくなるようです、歌うと楽しくなって幸せな気分になります。それを皆に分けたいと思ったのです。  
私の歌声で皆を笑顔にしたいんです、皆を幸せにしたいんです。  
私は子供だから人を幸せに出来る方法は限られてます、その限られた中で私は歌を選びました。  
だから私はこの絵を描きました。

## ヤマネの生息は 確認できず



岡部 憲和  
基金OB・OG会代表  
基金理事  
九州大学4年

基金の森ができてから、今年で4年目になります。  
一昨年の夏のイベントで、基金の森に鳥の巣箱をかけた。  
その一年後、昨年の夏のイベントでは、参加者と一緒に巣箱の確認をしました。一つの巣箱が異彩を放っていました。  
明らかに他の巣箱の身と違う植物が入っていたのです。そこには、細かい苔のような植物がありました。  
参加者の一人からヤマネの巣ではないかという考えが出ました。  
ヤマネ。日本の天然記念物。近年では、生息数が減少し、準絶滅危惧種とされています。筑波大学の杉山先生に巣箱を送ったところ、ヤマネのいる可能性ありとの報告がありました。早速、本格的な調査をすることにしました。そして昨年10月末、杉山先生の協力を得て、基金の森に200個のヤマネ専用の巣箱を設置しました。  
その後、杉山先生に一つひとつチェックしてもらったところ、ヤマネの形跡はありませんでした。  
主な原因として考えられたのは、ずばり、餌でした。ヤマネが食べる野イチゴはありません。今イチゴはありません。今回、ヤマネの形跡がなかったからと言って、昨年の努力が水の泡になるわけはありません。  
今後は、基金の森に範囲を限定せず、範囲を広げて、ヤマネの調査を試みようということになりました。



ヤマネがいない、と断定するのはどうかな？  
夢を持って長い目で見守ろう！

### あとがき

堀江 健一郎 基金OB・OG会代表 第14・15回生

今回のECOKO(第12号)は、夢みるこどもキャンペーン第19回イベントを特集しました。今年は、宮城県女川町から来福した女川中学校の2人を中心に夢みるこども基金のみんなが、復興を願い福岡市天神で街頭募金活動をしました。また、こどもシンポジウムでは、講師の阿部一彦先生(宮城県気仙沼市立唐桑中学校教諭)の実体験からのアドバイスを受けながら、防災について、討論会を行いました。自然災害の恐ろしさやこれから僕達がすべき事など考える貴重な機会となりました。

そのイベントに参加したこども達が、これらの体験を通して学んだと感じたことを、絵や文章を通じて表現しています。本号の記事を通じて、こども達の仲間に対する想い、優しさが全国の皆様の心に届くことを切に願っています。

原稿を寄せてくれたみなさん♪  
今回はイベント当日から原稿締め切りまでの期間が大変短かったのですが、寄稿してくれたみなさんのお陰で心温まる号に仕上がりました。ありがとうございました♡

## 新聞作りに参加して下さい

「環境こども新聞・エココ」は、環境をテーマに企画から取材、執筆まで全てこどもたちの手により作られている新聞です。基金のOB・OG会の会員はもちろん、それ以外のこどもたちも参加しています。

「環境」をテーマにしたものであれば、なんでも結構です。日々の生活の中で感じた事、体験した事や環境保護についての意見などを寄せ下さい。

「環境こども新聞・エココ」は年3回位のペースで発行を予定しておりますので、投稿は随時受け付けています。

投稿者は必ず氏名、所属(小、中、高校名と学年)、住所、連絡先を明記し顔写真を同封のうえ基金事務局へ送って下さい。絵、イラスト、漫画はカラーでお願いします。原稿、写真は基金のホームページからも投稿できます。

一人でも多くの方が新聞作りに関わってくれるのをお待ちしております。

### ● 投稿・問い合わせ先 ●

## 夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F

☎092-751-0021 FAX092-751-0249

e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp

URL: http://www.yumemirukodomo.jp

「環境こども新聞・ECOKO」への投稿待ってるよ！

